

2014 年度第 1 回研究会（通算第 8 回目）

日時：2014 年 7 月 27 日（日）14:00-19:00

場所：本郷サテライト 4 階

使用言語：日本語

全員 成果出版にむけての編集会議

* 概要

欠席者も含めて、全員から成果論文計画の概要についてレジメの提出が行われ、それにもとづき、一人 5-7 分程度で説明を行った。欠席者については共同研究代表がレジメの代読を行った。この作業をもとに、成果論文の方向性と個々論文の相互関係について討論が行われた。その結果、成果論文集の大まかな計画について見取り図が得られた。

そのなかで改めて確認されたのは、本共同研究の中心的課題は、広い意味での地域研究に関わる人類学的空間構想力の特色と効力を明らかにすることだということである。そのことで、隣接・関係する分野との協働のなかで人類学の貢献を明示することになる。調査のプロセスにおいて、現地調査を行う研究者は、当該地域に関わる既存の人類学・民族誌的研究を踏まえることでその地域理解の輪郭を得ていくのが事実である。しかし、民族誌調査のなかで得られた研究課題が、既存の地域理解とつながる場合もあれば、全く無い場合もある。あるいは異なる地域での研究史や理論と当該調査者の研究課題が結びつく場合もある。この点で、地域民族誌の方法は、当該地域に限って有効であるというよりもむしろ比較の視座を提供する側面をもっている。

また、個々の発表計画からわかったのは、現地調査のなかで発見される諸課題は、その調査者の空間構想力によって、「いま・ここにある」世界各地で発生する現代的課題の探求へ位置づけられているということである。例えば現代国際政治のなかでの「部族主義」、先住民問題、気候変動、移民と移動、紛争処理と地域秩序、表象と学術制度などである。現地調査者の空間構想力がグローバルな現代的課題の探求と結びつくということが確認された。それを踏まえて、成果論文集では以下の 4 つの柱で個々の研究を束ねて行くことが可能であるという見通しを得た。具体的には、「空間を占める」「空間を繋ぐ」「空間を統べる」「空間を捉える」である。「占める」とは先住民や部族主義のような空間の当事者性に関わる概念であり、占有の問題化、困難化といった現実のなかでどのような現代的課題があるのかということである。「繋ぐ」とは移民や資本などの移動などを通して、従来とは異なる形で空間と空間が連動する現実のなかで発生している現実的課題に着目することである。「統べる」と「捉える」は類似した概念であるが、前者がオリエンタリズム批判を含む地域表象と学術＝科学制度の歴史の今日的意味、つ

まり特定の空間において支配や統治が生み出されるプロセスについて焦点を当てようとする。これに対して後者は、人類学と地域研究の具体的な関係など、特定の空間を「地域」として創造してきた様々な第三者（研究者含む）の言説を論じるものである。

このような意見の集約を踏まえ、今年度においては、四つの柱の趣旨の研究可能性を深めるためのゲストスピーカーを招へいすること、また年度末にむけて個々のメンバーがそれに対応する形で改訂論文計画を提出し、成果論文集の刊行現実性を高めることとなった。

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。Copyrighted materials of the authors.